

子どもたちが成長できる学び場を、地域で作りたい――

市が推進する、初倉放課後子ども教室（通称フレンズクラブ）のコーディネーターを務める白石さん。初倉地区の小学生が、放課後に自主的な活動を通して成長できる居場所を、地域の仲間と共に提供し続けています。

【いつでも主役は子ども】

白石さんは、フレンズクラブの活動をスタートさせた平成19年度から、スタッフとして携わってきました。

「元々、初倉地区で未就園児向けの読み聞かせ活動が続けていたこともあり、市からスタッフのお誘いを頂きました。クラブのメンバーは現在、児童が17人、運営スタッフが私を含め7人、ボランティア協力が6人。活動は週1

回で、陶芸教室やドッジボールなどを開催します。特徴は、選択活動ですね。これは、児童が教室で何をしたいのか、自ら考

え、活動する時間。主体性を伸ばしてほしいと思い、こういった時間を設けているんです。子どもたちからは、輪ゴム鉄砲作りや木片を用いたドミノ作りなど、面白いアイデアがたくさん出てきますよ」

ての回に来てほしい。そこでこだわったのが、手書きの活動予定シートです。毎週の予定を、イラスト多めのすこく形式で作る「次は何かな」といったワクワク感を演出。出席シールを貼るスペースもある



初倉放課後子ども教室 コーディネーター
白石ふさ子さん(高砂町)

【出席する楽しみを演出】

白石さんは、教室を欠席する子どもたちが少しでも減るようにと、身支度に着目した工夫を仲間と考えました。

「それぞれ事情はあると思いますが、本音を言えば、全

層参加への意欲が高まると考えているからです」

【遊びだけど学び】

児童はクラブで、ただ遊んでいるわけではないと、白石さんは話します。

「子どもたちは、小学校のクラスとも違う新しいコミュニケーションで、面識のない大人や児童と一緒に活動します。閉級の時に寄せられた感想には『友達や先生と、神社で探索や鬼ごっこをして楽しかった』『フレンズでなければ、経験できなかったと思うことがたくさんあった』などの声が多くあります。遊びながら他者と関わり、社会的に成長しているんです。それをそばで見られることは、何よりもうれしいこと。これからも近所のおじさんやおばさんみたいな立場で、児童を見守っていききたいですね。主役の子どもたちが、楽しく学べるよう、教室の大人たちがサポートします」

初倉地区の岡田公会堂を拠点に開かれる、初倉放課後子ども教室。白石さんは、児童の成長を優しく見守る学び場を、地域と共に作っています。



今年の7月に開かれた、陶芸教室の様子

Shimadajin File #105

島田
Story 人